

きゅうりのお世話

天王小・2 おおい あやと

一学きの生活科で、「やさいをそだてよう」というじゅぎょうがありました。ぼくは、やさいの中で一番すきなきゅうりをえらびました。そして、夏休みにじゅぎょうでうえたきゅうりのお世話をがんばりました。

夏休みは学校がお休みだから、パパやママといっしょに学校のはたけに一日おきに水やりに行きました。今年の夏は、外にいるとあせがだらだらたれてきて、体がどろどろにとけてしまいそうなほどのあつさです。あついからすずしい朝や夕方に行きました。出しはじめのお水はあついので、つめたくなるまで水を出してからじょうろへ入れることに気をつけました。

「きゅうりをそだている子は、あつくてかれやすいから、お水を四はいくらいあげましょう。」
と、先生が教えてくれたので、

「きゅうりさん、かれないでね。」
「いっばいお水をのんでね。」

と言いながら、行くとたびに四はいあげました。

夏休みの間水やりをがんばったら、きゅうりはぼくよりせが高くになりました。黄色が多かったはっぱは、元気なみどり色のはっぱが多くなりました。花びらが五まいあって、ほしの形をした黄色のお花もさきました。花の下に、ぼくの小さくぶくらの小さい赤ちゃん

きゅうりがなっているものも見つけました。ぼくは、きゅうりが早く大きくなって、しゅうかくできるのを楽しみにしていました。

おぼんに名ごやおばあちゃんの家にあそびに行きました。おばあちゃんの家に行っている間は、お水をあげられませんか。ぼくは、お水をあげられない間にかれてしまったらどうしよう、だいじょうぶかな、としんぱいでしんぱいでしかたありませんでした。とよ川に帰ってきてすぐに、きゅうりを見に学校へ行きました。

「かれていますように。」

「元気でいますように。」

いっしょうけんめい心の中でいのりながらはたけにむかいました。きゅうりの近くに来たとき、ぼくは大きくいきをすってから目をひらき、どきどきしながらきゅうりを見ました。

元気なみどり色だったはっぱは黄色になって、ぼくよりせの高かったつるは、かりかりにしておれていました。がんばって大きくそだっていたぼくのきゅうりは、まるで生きる力がぬけたようにかれてしまいました。ぼくも、体の力がぬけてしまうほどかなしかったです。きゅうりさん、お水をあげられなくてごめんね。今までありがとう。とてもかなしかったです。

「自分でそだてたきゅうりを食べたかったな。もう一どそだてたいな。」

と言ったら、パパがグリーンセンターでなえを買ってくれました。自分で土を入れて、ひりょうを入れて、なえをうえました。こんどはからさないように、毎日お水をあげて、そだてて、しゅうかくしたいです。

お家のきゅうりも朝のすずしいうちにお水をあげています。うえ

たときは十五センチくらいだったなえも、今ではぼくのむねくらいまでのびました。うちわのようなみどりはっぱは、どんどんふえています。おひげのようなるは、雨や風にふきとばされないように、くるくるとしちゆうにまきついていきます。しゆうかくしたきゅうりを、そのまま食べたり、ちくわに入れたり、かっぱまきにしたりして食べるのが楽しみです。

学校のきゅうりははかれてしまったけど、がんばってお世話をして、大きくなったすがたを見たのはうれしかったです。こんどは、お家のきゅうりの番です。夏休みがおわってもがんばってお世話をしたいです。